

令和8年第2回市議会定例会 所信表明

令和8年6月1日

**【5期目の決意と歩みの回顧】**

本日、ここに令和8年6月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご健勝にてご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

3月に執行されました合志市長選挙におきまして、市民の皆様から多大なるご支援と、引き続き市政運営を担うご信任を賜り、5期目の市政を担わせていただくこととなりました。改めて、その職責の重さに身の引き締まる思いであり、市民の皆様の期待に応えるべく、これからの4年間、合志市のさらなる発展と、市民一人ひとりの幸福のために、全身全霊を捧げて市政に邁進する決意であります。

私が平成22年4月に、市民の皆様から市政運営の負託を受けて以来、早くも16年の歳月が過ぎました。この16年を振り返りますと、まさに激動の時代でありました。就任直後のリーマンショックによる財政の見直しに始まり、平成28年の熊本地震による未曾有の災害からの復旧・復興、そして令和では、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延。昨今では原材料価格の高騰、それによる物価高など経済情勢の新たな課題が生じていますが、私たちは、幾多の困難に直面し、その都度、市民の皆様と痛みを分かち合いながら、真剣に向き合い、乗り越えてまいりました。その歩みの中で、本市は着実な成長を遂げてまいりました。これはひとえに、市民の皆様のたゆまぬ努力と、議会の皆様の深いご理解、そして先人たちが築き上げてきた強固な郷土愛の賜物であると、改めて深く感謝を申し上げる次第です。

しかし、私たちを取り巻く環境は、予測を超えて加速度的に変化しています。少子高齢化の進展、日本全体の人口減少などの構造的課題、気候変動による自然災害の激甚化と頻発化、他方ではデジタル技術の飛躍的進歩、そして本市がその中心に位置する県内半導体関連産業集積の目覚ましい動き。これらの変化は、総じて本市にとって「合志市の飛躍の好機」であると捉えると同時に、解決すべき新たな課題にも直面しています。

私は、これまでの政治活動、また今回の選挙活動を通じて「人と地域が輝く未来へ～健幸都市こうし～」のさらなる深化を訴えてまいりました。誰もが健康で、しあわせを感じ、このまちに住み続けたいと思える姿。その理想を実現するため、これまでの16年間で築き上げた実績を礎に、次なる4年間、さらなる情熱と知恵をもって施策を推進してまいり所存であります。

**【4期までの成果と継承すべき理念】**

4期目までの市政運営において、私たちは住み続けたいまちづくりを進めてまいりました。

待機児童の解消に向けては、保育所の増設や認定こども園の設置を進め、定員を1,100名以上増員いたしました。また、子育て支援の充実として、18歳までの医療費無償化を実現し、次世代を担う

こどもたちの健やかな成長を支える環境を整えてまいりました。

都市基盤整備においては、北熊本スマートインターチェンジの整備や、アンビー熊本・志来菜彩のオープン、辻久保ゆめモール開発など、民間活力を取り込んだ新たな賑わいを創出しました。加えて、御代志地区の土地区画整理事業により、熊本電鉄御代志駅の移転及び周辺の一帯の再整備を行い、本市の新たな「顔」として「交流」や「地域活性化」の拠点整備を着実に進めています。

これらの成果は、合志市が掲げる「自治」「福祉」「教育」「生活環境」「都市基盤」「産業」という『6つの健幸（けんこう）』の理念に基づくものです。この基本方針は、5期目においても確固たる基礎として、しっかりと受け継いでまいります。

市民が主体となる「参画と協働」による『自治の健幸』、誰もが安心して暮らせる『福祉の健幸』、未来を拓く力を育む『教育の健幸』、自然と調和した安全な『生活環境の健幸』、機能的で便利な『都市基盤の健幸』、そして地域の活力を生み出す『産業の健幸』。これらを相乗的に向上させることで、ウェルビーイングを推進し、こどもたちが誇りに思い、大人が安らぎを感じ、日々の暮らしの中に確かな幸せが息づくまち。この合志市を、誰もが『最高の故郷』『選んで正解だった』と笑顔で語り合える未来を築いてまいります。

### 【3つの視点と5つの重点的実行施策】

さて、私が進める5期目の市政運営にあたり、三つの視点があります。

第一に、「市民の暮らしを守る」

第二に、「持続可能な未来につなぐ環境の構築」

第三に、「賑わいと交流による地域活力の向上」です。

これらの視点を踏まえ、今後の5期目の市政運営について、討議資料でもお示ししました「重点的5つの実行施策」を柱として掲げ、これを強力に推進してまいります。

#### ① 渋滞対策を国・県と連携し、より推進します

第一の柱は、市民の皆様の日常生活における最大の懸案事項である「交通渋滞の解消」です。

半導体産業の集積や住宅開発の進展により、本市の交通量は特に朝夕の渋滞が深刻化しています。

まず、中九州横断道路の早期完成に向け、国、県との協議をこれまで以上に加速させます。各インターチェンジへのアクセス道路を大幅に整備することで、広範囲から集まる街全体の車の流れをバランスよく分散し、スムーズな車の移動を促します。

また、慢性的な渋滞箇所である国道387号、須屋から御代志方面への4車線化については、事業化に向けた工法の目途が立ったところであり、早期の着工と完成を目指し、用地確保や財源確保に全力を

注ぎます。さらに、県道大津西合志線の多車線化についても、周辺の現計画区域の整備完了後、直ちに  
取り掛かれるよう、県に対して強力に働きかけてまいります。

市道についても、通学路の安全確保とセットでの改良を進め、歩行者と車両が共に安心して通行でき  
る交通ネットワークを構築いたします。

安全・安心な市民生活の基盤となる市道の整備につきましては、これまで以上に「通学路の安全確保」  
を優先事項として位置づけ、お子様からご高齢の方まで、歩行者と車両が共に安心して通行できる「人  
に優しい道路ネットワーク」を構築してまいります。

しかしながら、ハードとしての道路整備だけで、市民の皆様の移動の課題がすべて解決するわけでは  
ありません。本市がさらなる発展を遂げ、持続可能な都市として輝き続けるためには、これまでの自家  
用車中心の社会から、多様な選択肢を持つ公共交通を軸とした「新たな公共交通体系」への転換が必要  
です。

まず、主要な幹線軸においては、定時性と輸送能力に優れたバス輸送システムいわゆる BRT の導入  
可能性を検討いたします。T S M C の進出などにより激化する周辺道路の混雑を緩和し、スムーズな都  
市間移動を実現してまいります。

最寄り駅から目的地までの『あともう少し』『歩くには少し遠いけれど、バスを待つほどではない』  
などの移動を支えるため、シェアサイクルサービスなど『手軽な小型の乗り物』を市内に広く展開でき  
るよう運営主体と協議を進めます。

こういった交通渋滞対策を皮切りに「国・県・近隣自治体との緊密な連携」を強化し、産業誘致、防  
災対策など、本市単独では解決困難な広域的課題に対し、強い意志と責任感を持って、課題の解決に粘  
り強く取り組みます。

## ② サイエンスパークの構築と農地の保全を図ります

第二の柱は、「産業振興と環境保全の高度な両立」です。

合併時に策定した「新市建設計画」の新市における県事業の主な推進項目の3つのうち、「高速道路  
インターチェンジの整備」、「県道大津植木線バイパス整備」の2事業については完了しております。  
一方、「バイオフィオレスト構想の推進」については、本市には、国・県の農業研究機関が立地し、あわ  
せて農業関係者の育成を担う熊本県農業大学校も設置しています。すなわち、農商工連携による6次産  
業の受け皿となる条件が整っています。つまり、「バイオフィオレスト構想」の推進は、合併当時は的を  
射た発想でありましたが、県の方針転換等もあり未着手の状況です。

そこで、熊本県が策定した「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」に基づき、先日、本市は熊本  
県、そして三井不動産株式会社との間で基本協定を締結しました。この巨大プロジェクトを活用し、サ

イエンスの分野で人・物・情報による新たな産業創発にチャレンジできると考えております。

今後は、セミコンテックパーク周辺の約31ヘクタールにおよぶエリアにおいて、先端半導体産業のイノベーションを創発する拠点の整備を加速させてまいります。産官学連携や日台連携を深め、研究開発から量産までを支える持続可能な産業エコシステムを構築することで、次世代の産業を支える良質な雇用の場を創出し、若者が地元でいきいきと活躍できる土壌を整えてまいります。

そのため、単にサイエンスパークが立地した自治体で終わらせないように、人材育成やグローバル教育、各産業界との連携を図り、市民が半導体の集積により幸せを感じていただけるよう、プロジェクト会議体を組成し、事業を推進してまいりたいと考えております。

一方、本市の基幹産業である農業や、かけがえのない地下水資源を持続する施策に取り組む必要があります。無秩序な開発は厳に抑制しつつ、農業振興地域とのバランスを図った「秩序ある土地利用」を徹底いたします。特に地下水保全については、採取量の削減や水の再利用を企業に強く求めるとともに、地下水涵養の徹底や代替水源の活用を推進し、未来のこどもたちに豊かな水資源を引き継いでいきます。

### ③ 計画的な都市整備を行い、持続可能なまちづくりを行います

第三の柱は、「将来を見据えた都市デザインの構築」です。

新たに策定する「合志市都市計画マスタープラン」に基づき、点ではなく線と面で捉えた都市整備を進めます。御代志地区の整備で得た知見を活かし、交通拠点周辺の整備を計画的に進めることで、産業・物流・商業が調和した都市構造を目指します。

単なる利便性の追求だけでなく、福祉の視点や若者の感性を取り入れた「賑わいの場」を市内の随所に展開し、歩いて楽しい、集まって心地よい空間づくりを推進します。

また、老朽化が進む公共施設については、複合化や長寿命化対策を適時適切に行い、財政負担の軽減と利便性の向上を両立させた「持続可能な都市」を維持してまいります。

さらに、本市に新たに整備される中九州横断道路インターチェンジ周辺を広域交通の重要拠点と設定し、戦略的な土地利用の促進を図ります。まず、西合志インターチェンジ周辺においては、地方創生モデル事業として「動物との共生“癒し”の里こうし」構想を立ち上げ、推進します。

ここでは、動物やペットがもたらす癒し効果と共に人と人をつなぐツールとして活用することで、市の関係人口の増加にも期待しております。こどもも高齢者も、そして障がいのある方も、互いにコミュニケーションを図り、さらにはセラピーによる不登校支援やペット同伴避難所など、福祉・教育・産業・防災が融合した「ウェルビーイングな幸せ拠点」の創出を目指し、基本構想策定に着手してまいります。

一方、熊本県新野球場整備移転候補地の提案募集が、本年7月24日提出締切日として行われております。本市においても、スポーツを通じた健康増進や夢や希望をもたらす施設であり、多くの人々を集

める集客施設として交流人口を拡大する機会であり、半導体産業集積に伴う周辺環境の変化に伴うシンボリック施設としても大変有効な施設であるとして検討いたしました。

場所の選定は、募集要綱に照らすと、道路、公共交通の充実と熊本電鉄鉄軌道沿いとのお考え方を踏まえつつ、熊本県サイエンスパーク推進ビジョンに位置付けられた、御代志地区が今後は様々な起点となり得る可能性が非常に高いとの判断をいたしました。

本エリアに位置する、熊本県が所有する県農業研究センター及び農業公園一帯と九州沖縄農業研究センターについて、新たな土地取得を伴わずに、県有地において県営野球場を整備する意義は高いものとして、県へ照会を行ったところです。

回答として、県有地は農業の振興及び発展を図ることを主な目的に設置している行政財産であり、現時点で、廃止等する予定はなく移転候補地として適地ではないとの回答を得ております。

提案期日までに、経済波及効果や財政的影響などを考慮したうえで新たに移転候補地を選定することは困難であり、今回の県営野球場の移転候補地への提案は断念せざるを得ないと考えております。

#### ④ 高齢者も住みやすく、こどもや若者も楽しめるまちづくりを目指します

第四の柱は、「全世代型の地域共生社会の実現」です。

本市の人口は増加傾向にあるものの、令和4年度からは『生まれる人より亡くなる人が多い状態である自然減』に転じました。少子高齢化という深刻な課題が、いよいよ現実の波として押し寄せています。

いわゆる「2025年問題」「超高齢化社会」の到来と言われていますが、誰もが安心して年を重ねられるよう、健康維持や認知症予防に資する「各種体操教室」や、Ude スポーツの推進、さらには動物を活用したセラピー事業など、心身ともに健やかでいられる仕組みを地域単位で展開いたします。こどもや高齢者の見守りと防犯対策として、街なかカメラの設置も一層進めてまいります。

一方、子育て世代に対しては、「こどもまんなか」の視点をあらゆる政策の真ん中に据え、GIGAスクール構想の深化による教育環境の充実、小中一貫教育の推進による「夢の実現」を全力でバックアップします。こどもたちが伸び伸びと遊べる場の創出、さらには家族で楽しめるイベントの開催など、ハード・ソフト両面から「子育て満足度」の徹底した底上げを図ります。

若者が合志市を誇りに思い、住み続けたいと感じられるよう、DXを活用した利便性の高い市民サービスを提供し、官民連携による「健幸都市こうし」の仕組みづくりを完成させます。

#### ⑤ 財政基盤の一層の強化を推進します

第五の柱は、これら全ての施策を支える「揺るぎない財政経営」です。

本市の財政状況は、これまでも健全な指標を維持してまいりました。

しかし、物価高騰の影響や社会保障費の増大など、取り巻く環境は予断を許しません。

今後も必要な施策を継続的・安定的に実行していくためには、財源の確保が不可欠です。「稼げる市」を合言葉に、積極的な企業誘致、地域経済の活性化による税収の確保、ふるさと納税の戦略的な展開、そして官民連携による事業推進を図り、財源の確保に努めます。「稼ぎ、備え、賢く使う」財政運営に徹することで、将来世代に過度な負担を残さない責任ある行政経営に取り組んでまいり所存です。同時に、自治体 DX（デジタルトランスフォーメーション）を強力に推進し、市民の利便性向上と行政事務の効率化を図ります。窓口に行かなくても済む行政手続きの拡充や、データに基づくエビデンス・ベースの政策立案いわゆる EBPM を定着させます。

### 【むすびに】

結びに、合志市は今、大きな可能性に満ち溢れています。

私たちが目指すのは、単に人口が多いまちでも、建物が立ち並ぶまちでもありません。こどもたちの笑い声が響き、若者が夢を語り、高齢者が安らぎを感じ、全ての市民が「このまちに生まれてよかった」「このまちで育ってよかった」と思える、心の豊かさに満ちた「健幸都市」です。

私は、この新たな4年間の任期において、市民の皆様のご期待に応えるべく、組織の見直しも含め、新たな体制を構築しながら、持てる力の全てを注ぎ込む覚悟でございます。

5期目という長期にわたる信任は、決して「現状維持」を求めるものではなく、これまでの経験と実績に基づいた「さらなる進化」への期待であると、私は深く自覚しております。

議員各位におかれましても、市政の健全な発展のため、時には厳しく、時には温かく、建設的なご提言とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「人と地域が輝く未来へ」。

将来を担うこども達が輝ける合志市の未来を、市民の皆様と共に創り上げていくことをお誓い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。

以上